

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和4年3月に「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第3回)」を公表した。

令和3砂糖年度(10月～翌9月)の見通し

【砂糖】

総消費量：175万6000トン(前回見通しから1万トン減)

総供給量：178万3000トン(同2万1000トン増)

【加糖調製品】

消費量および供給量：46万トン(前回見通し同)

【異性化糖】

消費量および供給量：77万1000トン(前回見通しから2万トン減)

(1) 砂糖の消費量

令和3砂糖年度(10月～翌9月)の砂糖の消費量は、175万6000トン(前年度比0.6%増)と見通している(表1)。内訳を見ると、引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への警戒感などにより、依然消費行動に慎重さが見られる一方、高齢者などを中心とした3回目のワクチン接種の進展や、まん延防止等重点措置の解除などにより、本格的な回復とまではいかないものの、緩やかな経済活動の回復が見込まれることから、分みつ糖の消費量は172万トン(同0.6%増)と見通している。含みつ糖の消費量は近年の消費動向などを勘案し、3万6000トン(同2.9%増)と見通している。

(2) 砂糖の供給量

令和3砂糖年度の砂糖の供給量は、178万3000トン(前年度比1.8%減)と見通している。内訳を見ると、分みつ糖の供給量は176万4000トン(同1.8%減)、含みつ糖は1万9000トン(同5.6%増)

と見通している。国内産糖(分みつ糖)の供給量は、てん菜糖については、てん菜の作付面積が前年産と比べ1.3%(約760ヘクタール)増加した。作柄については6月下旬以降降水量が少ない状態が続き、生育への影響が懸念されたものの、8月のまとまった降雨以降、おおむね順調な生育となったことから、産糖量は64万トン(前年産比1.4%増)、供給量は63万9000トン(精製糖換算(以下同じ)。前年度比1.4%増)と見通している。甘しや糖については、サトウキビの収穫面積が前年産に比べ4.9%(約1099ヘクタール)増加した。作柄については、一部の島において生育初期や夏場に小雨の影響が懸念されたものの、全体としては台風被害などの大きな自然災害もなく、一年を通じて気象条件に恵まれたことから、おおむね順調な生育となり、産糖量は15万4000トン(前年産比3.5%増)と前年を上回ると見通している。供給量については14万7000トン(前年度比3.4%増)と見通している。

表1 令和3砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		令和2砂糖年度 (実績)	令和3砂糖年度				合計	
			10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)		
消費量	分みつ糖	1,710	462.3	398.5	428.1	431.1	1,720	
	含みつ糖	35	7.2	11.9	9.6	7.7	36	
	合計	1,745	469.5	410.4	437.7	438.8	1,756	
供給量	国内産糖	分みつ糖	772	382.3	364.6	39.3	-	786
		含みつ糖	10	0.7	6.8	3.4	-	11
		小計	782	383.0	371.4	42.7	-	797
	輸入糖	分みつ糖	1,025	253.8	134.7	296.9	292.9	978
		含みつ糖	8	1.4	3.4	2.1	0.9	8
		小計	1,032	255.2	138.1	299.0	293.8	986
	合計	分みつ糖	1,797	636.1	499.3	336.2	292.9	1,764
		含みつ糖	18	2.1	10.2	5.5	0.9	19
		小計	1,815	638.2	509.5	341.7	293.8	1,783
	期末在庫		429	583.4	651.9	555.9	410.9	411

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

(3) 加糖調製品の需給

令和3砂糖年度の加糖調製品の消費量は近年、大きく消費が減少している動向にあるとともに、引き続きCOVID-19への警戒感などにより、依然消費行動に慎重さが見られる一方、高齢者などを中心とした3回目のワクチン接種の進展や、まん延防止等重

点措置の解除などにより、本格的な回復とまではいかないものの、緩やかな経済活動の回復が見込まれることを勘案し、46万トン（前年度同）と見通している（表2）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 令和3砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	令和2砂糖年度 (実績)	令和3砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	460	111.8	116.7	114.1	117.1	460
供給量	460	111.8	116.7	114.1	117.1	460

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和3砂糖年度の消費量は、令和2砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

(4) 異性化糖の需給

令和3砂糖年度の異性化糖の消費量は、引き続きCOVID-19への警戒感などにより、依然消費行動に慎重さが見られる一方、高齢者などを中心とした3回目のワクチン接種の進展や、まん延防止等重点措

置の解除などにより、本格的な回復とまではいかないものの、緩やかな経済活動の回復が見込まれることから、77万1000トン（前年度比2.8%増）と見通している（表3）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 令和3砂糖年度における異性化糖の需給見通し

	令和2砂糖年度 (実績)	令和3砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	750	166.5	170.6	218.9	215.4	771
供給量	750	166.5	170.6	218.9	215.4	771

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」
注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

2月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2022年2月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、6万5979トン（前年同月比83.3%増、前月比2.1倍）であった（図1）。

輸入先は甘しや糖・分みつ糖については米国、甘しや糖・その他については豪州で、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図2）。

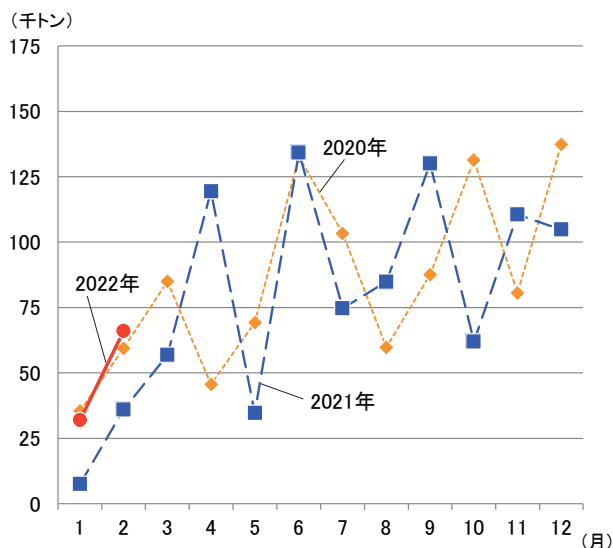
米国 19トン

（前年同月および前月輸入実績なし）

豪州 6万5960トン

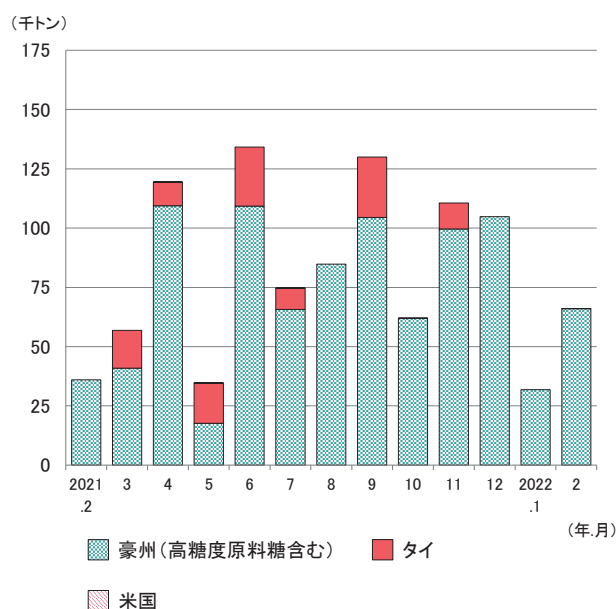
（前年同月比83.2%増、前月比2.1倍）

図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国・地域別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

2022年2月の甘しや糖・分みつ糖の1トン当たりの輸入価格は、15万2737円（前年同月および前月輸入実績なし）であった（図3）。

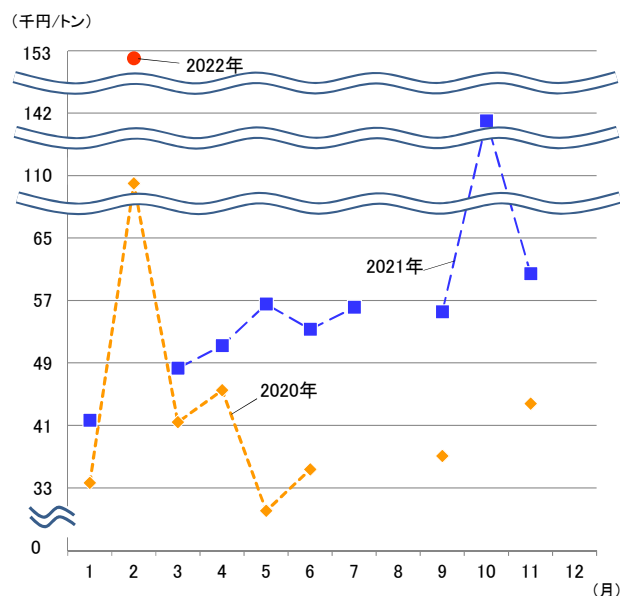
国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

米国 15万2737円

（前年同月および前月輸入実績なし）

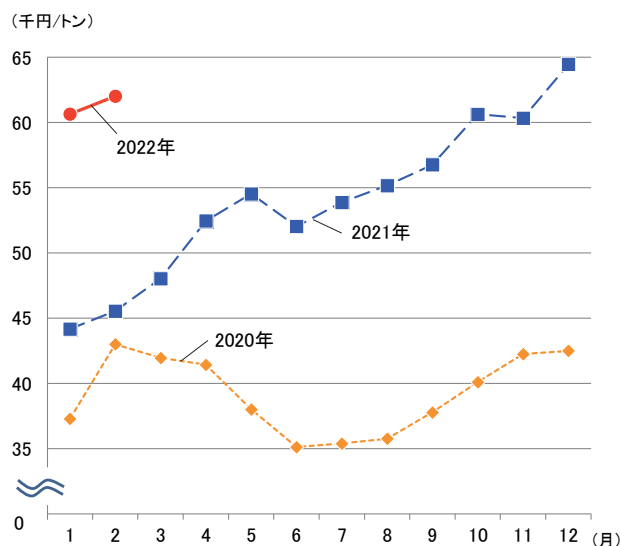
また、同月における甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、6万2029円（前年同月比36.2%高、前月比2.3%高）であった（図4）。

図3 粗糖（HSコード1701.14-110）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2020年7月、8月、10月、12月、2021年2月、8月、12月および2022年1月は輸入実績なし。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

【含みつ糖の輸入動向】

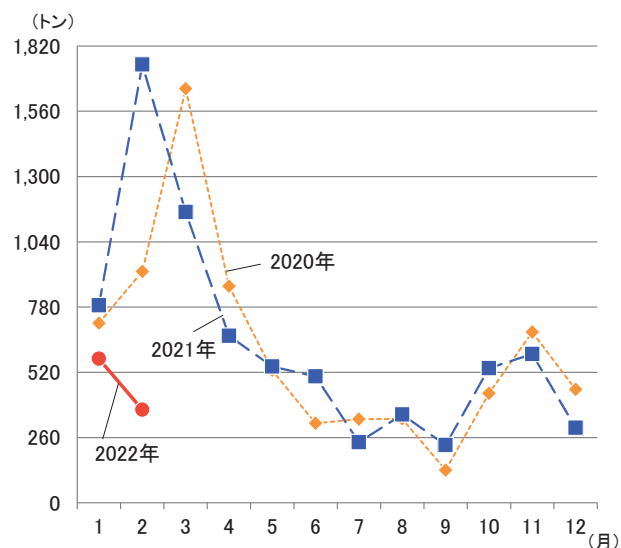
2月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2022年2月の含みつ糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、371トン（前年同月比78.8%減、前月比35.4%減）であった（図5）。

輸入先はタイ、中国、ボリビアおよびフィリピンで、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図6）。

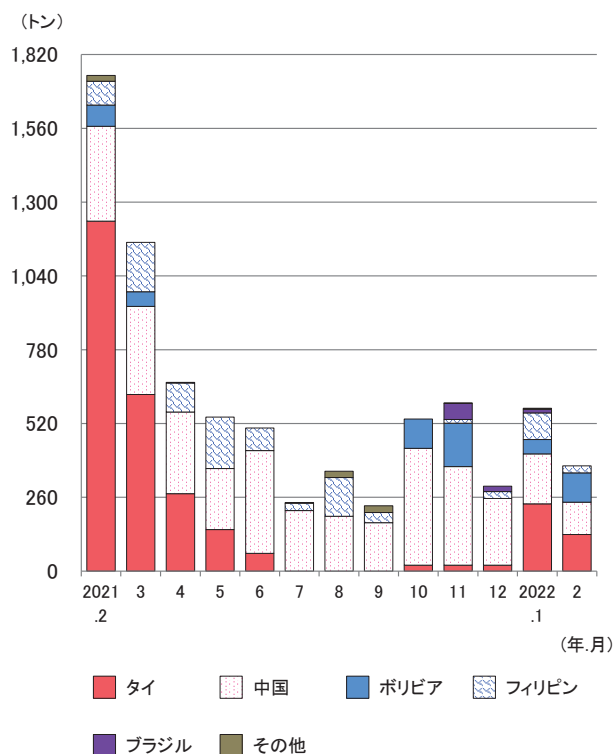
タイ	129トン
	（前年同月比89.5%減、前月比45.6%減）
中国	114トン
	（同65.9%減、同35.2%減）
ボリビア	103トン
	（同37.3%増、同2.0倍）
フィリピン	25トン
	（同70.2%減、同73.4%減）

図5 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国・地域別輸入量の推移



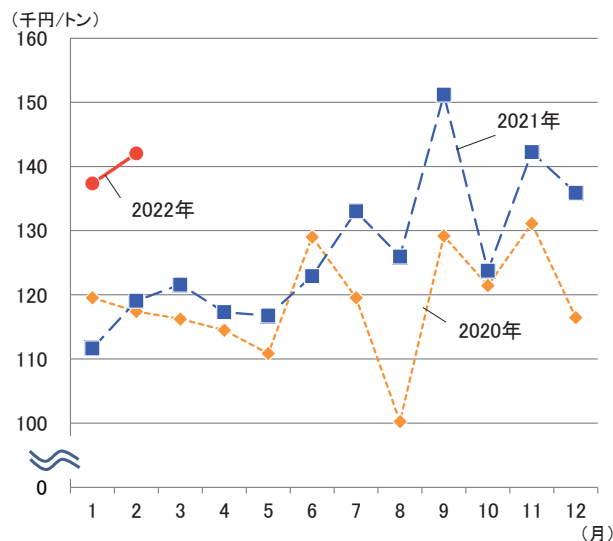
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2022年2月の1トン当たりの輸入価格は、14万2049円（前年同月比19.3%高、前月比3.4%高）であった（図7）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	12万9713円
	（前年同月比10.1%高、前月比0.5%安）
中国	14万2728円
	（同19.8%高、同6.3%高）
ボリビア	13万7340円
	（同5.9%高、同0.2%高）
フィリピン	22万2000円
	（同2.0倍、同60.0%高）

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

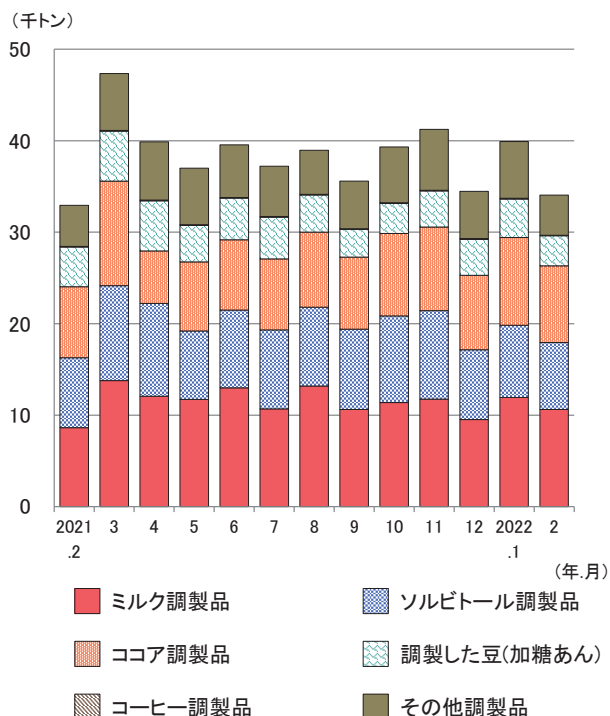
【加糖調製品の輸入動向】

2月の加糖調製品の輸入量は前年同月からやや増加

財務省「貿易統計」によると、2022年2月の加糖調製品の輸入量は、3万4043トン（前年同月比3.3%増、前月比14.7%減）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：各品目のHSコードは、次の通り。

ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、
1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、
1806.90-212、1806.90-213

コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、
2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、
2005.51-199

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

その他調製品：2008.99-218、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、
2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品品目別輸入量（2月）

(単位：トン)

区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	10,622	22.9%	▲ 11.0%
ソルビトール調製品	7,333	▲ 3.9%	▲ 7.2%
ココア調製品	8,376	7.8%	▲ 12.5%
調製した豆（加糖あん）	3,286	▲ 24.4%	▲ 21.9%
コーヒー調製品	52	▲ 3.9%	▲ 40.6%
その他調製品	4,374	▲ 2.8%	▲ 29.4%
合計	34,043	3.3%	▲ 14.7%

資料：財務省「貿易統計」

注：端数処理の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

3. 異性化糖の移出動向

3月の移出量は前年同月からやや減少

2022年3月の異性化糖の移出量は、7万1211トン（前年同月比4.5%減、前月比28.2%増）であった（図9）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図10）。

果糖含有率40%未満 525トン

（前年同月比18.2%増、前月比55.3%増）

同40%以上50%未満 1万9588トン

（同2.4%減、同26.2%増）

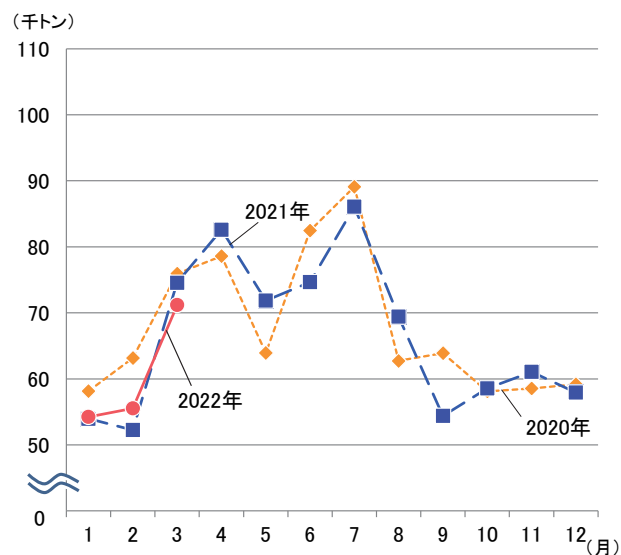
同50%以上60%未満 5万644トン

（同4.5%減、同28.7%増）

同60%以上 455トン

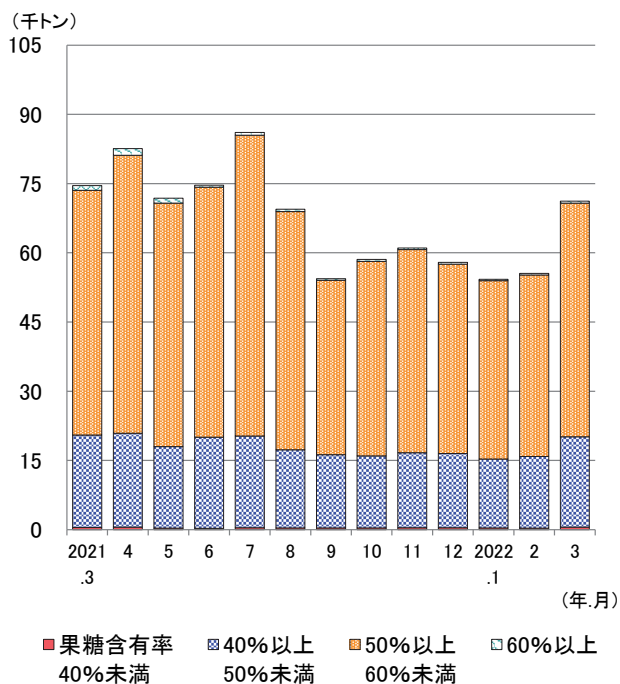
（同55.1%減、同44.6%増）

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

4. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

3月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京 1キログラム当たり204～205円

大阪 同204～205円

名古屋 同208円

関門 同208円

上白糖（小袋）

東京 1キログラム当たり216～219円

大阪 同219円

本グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり209～210円

大阪 同209～210円

名古屋 同213円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり204～205円

大阪 同204～205円

名古屋 同206円

3月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり146～147円

果糖分55%もの 同152～153円

【小売価格】

3月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で37.7円

マーチャндаイジング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける3月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、207.2円（前年同月差13.7円高、前月差1.9円高）であった。最も高かったのは北海道で、最も安かった関東などとの価格差は37.7円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（3月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	228.7	17.7	0.5
東北	201.7	4.5	▲1.8
関東など	191.0	10.5	0.7
首都圏	192.1	5.1	▲0.1
中部	200.3	10.7	1.4
関西	201.9	12.7	1.4
中国・四国	214.9	18.3	4.1
九州・沖縄	214.6	15.2	1.4
全平均	207.2	13.7	1.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

3月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で75.3円

マーチャング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける3月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、254.0円（前年同月差11.1円高、前月差1.4円高）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は75.3円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（3月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	220.4	5.5	0.7
東北	295.7	11.9	0.7
関東など	270.5	18.7	2.6
首都圏	262.4	5.0	▲1.0
中部	247.7	8.6	0.4
関西	243.7	5.4	▲4.5
中国・四国	250.3	12.0	4.1
九州・沖縄	253.2	14.8	3.5
全平均	254.0	11.1	1.4

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

3月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で45.8円

マーチャング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける3月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、244.7円（前年同月差13.9円高、前月差1.9円高）であった。最も高かったのは北海道で、最も安かった首都圏との価格差は45.8円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（3月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	279.4	12.1	1.4
東北	256.8	12.1	2.4
関東など	239.9	15.4	0.8
首都圏	233.6	9.5	0.4
中部	246.2	12.5	0.7
関西	244.4	7.8	▲0.7
中国・四国	250.2	16.2	3.3
九州・沖縄	235.3	16.4	3.6
全平均	244.7	13.9	1.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

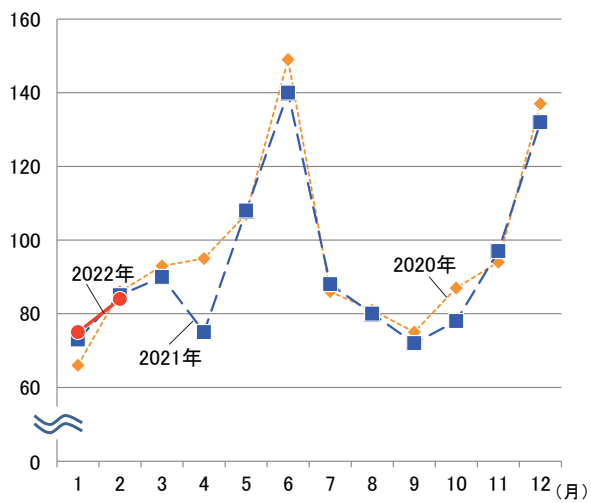
注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

【支出金額および購入量】

2月の砂糖の支出金額は前年同月からわずかに下落

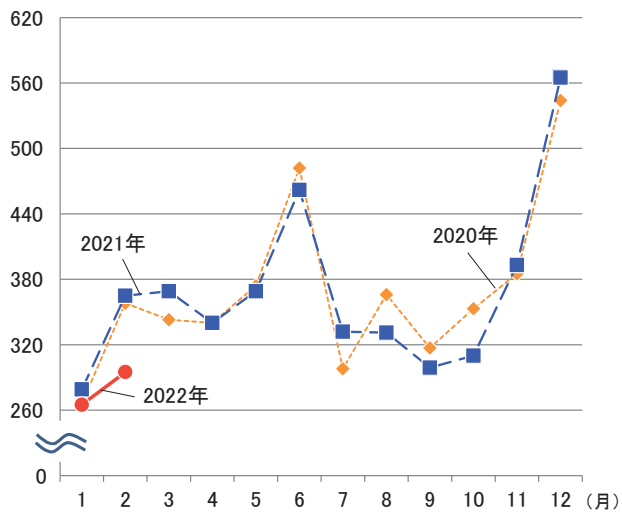
総務省「家計調査」によると、2022年2月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は33、1世帯（二人以上）当たりの支出金額は84円（前年同月比1.2%安、前月比12.0%高）であった（図11）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、295グラム（同19.2%減、同11.3%増）であった（図12）。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出金額の推移
(円)



資料：総務省「家計調査」

図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移
(グラム)



資料：総務省「家計調査」